

## 平成22年度 佐賀県立佐賀商業高等学校学校評価計画

<b>1</b>	<b>学校教育目標（長期教育目標）</b>
経済社会の各分野で活躍しうるように、学校生活のあらゆる機会を通じて商業人として必要な知識や技術を習得させ、生徒の心身を錬磨する。	

<b>2</b>	<b>学校経営ビジョン（中・短期教育目標）</b>
(1) 「授業と部活動を真剣に」をモットーに文武両道の教育を推進する。 (2) 基本的な生活習慣を身に付けさせ、心身ともに健全な生徒を育成する。 (3) 規律やルールを守り、努力する、心豊かな生徒を育成する。 (4) キャリア教育（生徒一人ひとりの勤労観や職業観を育てる）を推進し、地域社会や日本経済の発展に寄与しうる商業人を育成する。 (5) 教育公務員としての自覚を持ち、資質の向上に努める。 (6) 地域・保護者との連携を強化し、信頼・期待される学校を目指す。	

<b>3 本年度の重点目標</b>	<b>4 前年度の成果と課題</b>
夢は大きく、あたりまえのことをあたりまえに！ (1) 明るい挨拶、気持ちのよい挨拶 (2) 授業と部活動を真剣に (3) 自宅学習の習慣づくり (4) 佐商生らしい身だしなみ (5) ゴミの持ち帰り (6) 毎月1冊以上の読書	<b>【成果】</b> 進学・就職とも100%達成（国公立大14人） <b>【課題】</b> (1) 地域から信頼され、魅力ある学校。 (2) 基礎学力の定着を図るための学習指導体制の確立。 (3) 危機管理体制の強化。

<b>5 総括表</b>				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学 校 運 営	学校経営方針	・本年度重点目標の周知	・教職員、生徒、保護者に周知する。 ・周知度を90%以上にする。	・職員会議や全校集会等で説明する。 ・学校便り、後援会総会、学級懇談会等の折りに周知し、具体的取組を説明する。
	教職員の 資質向上	・研究授業（公開授業）の推進	・教師一人当たり、年最低1回以上研究（公開）授業を実施する。	・指導方法の工夫・改善のために、各教科での研修や研究の充実を図る。 ・何時でも公開授業ができる体制づくり
	観点別評価の研究推進	・社会の変化に対応した教育の実践	観点別評価や学力把握に関する研究を行い、その成果を授業改善に具現化する。 ・年に1回は研修を受講する。	観点別評価や新学習指導要領等の研修会を計画的に行う。 ・県教委や教育センターの研修等を活用し、教育環境の変化に的確に対応できる教員の育成を図る。
	開かれた学校づくり	・1日体験入学の実施 ・家庭や地域への情報発信（鯨の門だより）	・中学生の参加者数を、昨年並み（1,000人程度）の参加を目指す。 ・スクールニュース等を随時更新する。鯨の門だよりの保護者への周知度を85%以上にする。	・中学校への学校説明（DVD・生徒代表発表）内容の充実を図る（学校の特長・3学科の特長を充実させる） ・制服・各部紹介パネル等 ・スクールニュースや「鯨の門だより」を通じて、学校の情報を公表し、ホームページについては逐次内容の更新を図る。（閲覧の状況・件数の確認） ・アンケートにより保護者への配布確認・内容の感想。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	開かれた学校づくり	・学校施設や教育資源の地域への開放	・各機関からの要望に対する開放に向けて条件整備を行う。	・学校施設を各種試験会場や地域行事等に開放する。 ・地域行事に積極的に協力参加する。
		・地域との連携	・「高校生 Teacher 講座」の3つの講座を担当する。	・夏休みに実施される神野公民館主催の「高校生 Teacher 講座」に参加し小学生への指導をとおして地域との連携を深める。
		・学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	・学校評議員会を学期に1回実施する。	学校評議員会を学期に1回実施し、各委員から出された意見を吟味し、学校運営に反映させる。 ・学校評議員に授業を参観していただき、意見を聴取し、授業や行事の改善を図る。
		・保護者や地域との連携	・保護者や地域の人を対象に、3回以上、公開授業を実施する。	・後援会総会時に公開授業を実施する。 ・学校開放週間に全ての授業・部活動等を公開する。
教育活動	学力向上	・基礎学力の向上	朝のHRの時間を利用して、漢字テスト・英単語テストを行う。	週間行事予定で事前に周知し、家庭での学習を促す。
		・授業時間の確保	出張等による自習時間を年間30時間以内に努める。	出張等に関する職員間の連絡を密にして、振替等を実行する。
		・資格取得への取組	・卒業までに全員に1種目以上1級の資格を取得させる。 ・卒業までに3種目1級以上の取得者数を50人以上にする。 ・卒業までに情報処理科の生徒全員に情報処理1級の資格を取得させる。 ・国際経済科の3年次までに、全員に実用英語検定準2級を取得させる。	・理解度を見るための確認小テストを実施し到達していない生徒には、補習を実施する。 ・高度資格を取得することで、進学に生かした指導体制を確立する。 ・各種検定前の強化指導を図る。(部活動顧問との連携)
人権・同和教育	人権・同和教育の推進	あらゆる差別を許さない精神と態度を育成する。	各学期に1回以上、人権・同和教育の研修会を実施する。各種人権・同和研修会に積極的に参加し、職員の研修に努める。	
	心の教育	・外部講師による教育相談職員研修 ・カウンセリングの充実(不登校生徒の減少)	・登校(欠席)状態を把握し、早期対応・早期解決を図る。	・いじめの問題を生徒・教職員全体のものとしてとらえ、「命の大切」さを理解させるための調査並びに、個人面談を実施する。 ・家庭との連携 ・スクールカウンセラーとの連携・協力(教職員のカウンセリングマインドの高揚を図る) ・教育相談カードの活用

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教 育 活 動	心の教育	・ボランティア活動の実施	・年1回以上のボランティア活動を実施する。	・クラスごとに地域を割り当て清掃活動をする。
		・体験活動の実施	・インターシップの活用	・異年代との係わりを通して多彩な体験をさせる。
		・読書活動の推進	・自己を見直す時間をつくる。	・推薦書の紹介(図書課・教職員からの紹介) ・朝読書時間の充実
	健康・体づくり	・食育の推進	・朝食喫食率を90%以上とする。 (生活習慣病の減少)	・実態把握のためアンケートを実施し、生活のリズムの安定を図る。 ・学校栄養士による指導 ・食育関連の情報発信(プリント配布)
	進路指導	・進路意識の高揚と希望進路の実現	・進路内定率100%の達成  ・進路意識の啓発  ・学習意欲の喚起と学力向上	・企業訪問・学校説明会による進路先の開拓と実態把握。 ・進路研究ノートの作成と活用促進。 ・出願書類作成指導の徹底(履歴書・志望理由書等)。 ・面接・小論文対策個別指導の充実  ・学年別の進路ガイダンス・講演会・研修会等の実施。 ・進路希望調査・適性検査の実施。 ・進路だよりの定期的発行。  ・補習授業・実力テストの実施。
	生徒指導	・基本的な生活習慣の確立	・皆勤の生徒を5%増やす。	・「明るい挨拶、気持ちの良い挨拶」運動を推進する。  ・正しい礼儀作法(言葉遣い指導)と佐商生らしい身だしなみ等、マナーアップの呼びかけと指導。
		・安全教育の徹底	・交通事故(特に自転車事故)の減少(10件以内)	・交通指導の徹底と安全教育に対する講話の実施。 ・交通事故マップの作成。 ・集会ごとに交通安全・危機管理意識の啓蒙を図る。
		・耐性・忍耐力の育成(服装基準の厳守)	・校則を守らせる(服装再検査の減少) ・周知度を80%以上にする。	・生徒指導方針を年度当初に職員、生徒や保護者に明確に示し、定期的にその達成度を確認する。
・事後指導より事前指導の徹底を図る		・事件や事故の発生率を昨年より下げる。(10%)	・事件や事故が起こってから指導するのではなく、事件や事故が起こらないように事前指導を徹底する。	
図書	「生徒が利用しやすい図書館」の実現	・貸出冊数の増加(年間4000冊目標)  ・読書内容の充実  ・「朝読書」毎日実施の定着	・学年や時節に対応した読書指導の実施  ・三年生の小論文指導とも連携  ・学級文庫の設置など生徒会図書委員会と連携した啓蒙活動の実施	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育 活 動	特活指導	・生徒の個性や能力を引き出す	・参加意識の高い学校行事を作る。	・企画の段階から生徒の意見を聞く。 ・発言や発表の機会を増やす。 ・司会やお礼の言葉、浄書などができるだけ生徒に任せる。 ・準備に時間をかけ生徒の満足度の高い佐商祭（文化祭・体育祭）を実施する。
		・生徒の主体的な取り組みを増やす	・生徒会の月目標を決定し実行する。	・毎月の目標をクラスで話し合い、それを基に全校での月目標を実行し、検証する。
			・各種委員会活動を月1回行う。	・クラス役員としての自覚を高め、委員会活動を活発に行う。
		・部活動の活性化	・部活動入部率95%以上を目指す。	・体験入部期間を設定する。 ・退部届の活用で退部者に対する追指導を行う。
			・運動部は高校総体で優勝旗6本獲得を目指し、文化部は大会やコンクールの入賞数を増やす。	・全校集会や主将部長会議で強い佐商の意識付けをしたり、大会やコンクールへの出場や応援を増やす。
		・勉強と部活動の両立	・部員の学習に対する意欲を高める。	・原則として週1日の部活動の休養日を設定する。 ・定期考査期間中は部単位での勉強会を実施する。
		・部室管理の徹底	・学期に1回部室検査を行う。	・部室の清掃状況や備品の使用状態を点検する。
	保 健	・感染症予防と定期健康診断の事後指導の徹底	・麻疹の予防接種立を95%にする。 ・健診後の治療率のアップを図る。 (視力60%) (歯科50%)	・学年主任・担任による指導。部活動・保護者会での啓蒙運動を行う。 ・三者面談を利用し、保護舎の理解と協力を得る。また、2学期に視力の再検査を実施し、保健指導をする。
		・ヘルスプロモーションの促進	・自分の健康課題に気づき、意識改善、実践のできる生徒を育てる。	・「保健だより」・掲示板・保健講話 ・委員会活動を通じて、全生徒に心身の健康づくり・安全衛生に対する意識の啓蒙を図る。 ・学校保健計画に基づき、本校の現状を踏まえて保健指導を行う。
		・ゴミの減量化	・ゴミの量を昨年度より、減らす。 (5%以上)	・委員会活動を通して各クラスから出されるゴミの量を減らす。 ・各自持込んだものは責任を持って処理すること(ゴミ持帰り運動の推進)
		・教育相談体制づくり	・不登校生徒等への支援体制を確立する。	・講演会や保健だよりを通じ、心の教育や安全教育の充実を図る ・保健室と学年会(担任)および教科担当との連絡会を通じて、不登校生徒への理解と支援のあり方を検討し、協力体制を確立する。
・施設・設備の安全管理の徹底		・ケガや事故を未然に防ぎ、日本スポーツ振興センターへの手続きを5%減。	・安全点検の結果に基づき、再点検を毎月1回行う。 ・学校安全計画に基づき本校の現状を踏まえ対人管理・対物管理を行う。	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	後援会	・保護者との連携	・後援会総会への参加率を70%以上にする。 ・学年別保護者会の内容検討(参加率50%以上) ・九高P大会を成功させる。	・授業を公開(主に担任による授業)することで、多くの参加を促す。 ・学年保護者会の実施時期と内容等の検討。 ・出来るだけ多くの保護者に参加を呼びかける。
	情報管理	・個人情報保護と情報漏洩の防止 ・学校ホームページ学校だよりの内容充実と定期的更新	・定期的調査と職員への意識強化 ・最新情報のアップに心掛ける。(各方面の情報の収集)	・情報セキュリティ月ごとの調査実施 ・学校行事や部活動の結果をいち早くホームページで知らせ、学校のPR活動に生かす。
	学校行事	・学校の重点目標に則した学校行事の実施	学校行事の精選と授業時間の確保	・各課との連携を強化し、内容の充実と精選により、授業の確保を図る。 ・学校行事を考査後に実施する。
	家庭学習	・家庭学習の時間の確保	・毎日最低1時間の確保	・各教科・科目で課題を出す。(提出期限の厳守と未提出者指導)
1学年の教育活動	学習関係	・基礎学力の向上	・漢字テスト、英単語テストの不合格者数を学年5%以内にとどめる。 ・学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・課題の提出率を100%にする。 ・真剣な授業態度を育成する。	・実施計画に基づき、正副担任の連携を図って、事前指導・事後指導を徹底する。 ・ホームルーム時の有効活用により、定期考査前の指導強化を図る。 ・課題提出状況のチェックを確実にし、未提出者に対する指導を徹底する。 ・始業チャイムの前に着席させ、授業の準備をさせるとともに、居眠りや頼杖をつくことのないように、常に注意を払う。
	生活関係	・基本的生活習慣の確立	・保護者との信頼関係を構築する。 ・全クラスで出席率95%以上を目指し、長期欠席者を未然に防ぐ。 ・違反行為者「0」を目指す。 ・教育環境の整備を図る。	・担任・副担任・学年主任と保護者との連絡を密にする。 ・長期欠席者対策として、保健室や教育相談と連携し、スクールアドバイザー等に相談しながら、早期解決を図る。 ・ホームルームや学年集会等を利用して、違反行為を未然に防ぐ指導を徹底する。 ・教室のロッカーの整理整頓や担当掃除区域での清掃活動の指導を徹底する。
	その他	・進路希望の達成	・職業意識・進路意識を明確に持たせることにより、進路希望達成のための具体的個人目標を100%確立させる。	・学年個人面談を実施し、早期意識付けをする。 ・ホームルームや学年集会等を利用して、進路ガイダンスを行い、職業観を養うとともに、自己の適性を見出させる。 ・進路(就職または進学)に対する考えを明確にさせ、進路希望達成のために必要な検定資格取得の指導を徹底する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	その他	・部活動の活性化	・文武両道を前提としながら、95%以上の部活動加入率を目指す。	・担任団を中心として、機会あるごとに生徒への声をかけを行い、部活動加入率アップを図る。 ・部活動が教育の一環であることを確認し、部員が挨拶や礼儀を身につけ、学校の中でリーダーシップを発揮できるよう育てていく。
2 学 年 の 教 育 活 動	学習関係	・基礎学力の向上	・漢字テスト、英単語テストの不合格者を学年の5%以内にとどめる。 ・課題の提出率を100%にする。	・実施計画に基づき、正副担任の連携を図って、事前指導、事後指導を徹底する。  ・課題提出状況のチェックを確実にし、未提出者に対する指導を徹底する。
	生活関係	・基本的な生活習慣の確立	全クラスの出席率98%以上及び皆勤 ・精勤70%以上を目指す。  ・違反行為者「0」を目指す。	・家庭との連絡、保健室や教育相談との連携を密にする。  ・ホームルームや学年集会を利用して違反行為を未然に防ぐ指導を徹底する。
	その他	・進路希望の達成	・職業意識、進路意識を明確に持たせることにより、3月までに進路目標を100%確定させる。	・職場・上級学校取材（星プラン）や修学旅行等各種特別活動の事前指導・事後指導を十分に行い、世界観や視野を広げ、社会性を身に付けさせる。 また、職場・上級学級取材（星プラン）実施に向けて、企業や学校研究を行う。
		・部活動の活性化	・文武両道を前提としながら、95%以上の部活動加入率を目指す。	・部顧問との連携をとり、部員の活動を応援するとともに、未入部者への声かけを行い、部活動加入率アップを図る。
		・生徒会活動に積極的に参加する。	・入部率を95%以上に各クラス2人以上以上として活動させる。	・学校活性化に繋がるように、生徒会活動に参加させる。
3 学 年 の 教 育 活 動	学習関係	・基礎学力の向上と高度資格取得	・学年全体の評定平均値4.1以上を目指す。 ・各検定試験1級取得数のアップを目指す。 ・漢字テスト、英単語テスト満点を目指す。	・ホームルーム・個人面談・学年集会等を利用して、希望進路の実現へ向けて評定平均値のアップと高度資格取得の重要性を再確認させ、学習意欲を喚起する。
	生活関係	・基本的な生活習慣の確立	・出席率99%以上および皆勤・精勤生徒80%以上を目指す。	・ホームルーム・個人面談・学年集会を利用して、自立した社会人のなるために、自己管理（生活・健康）の重要性を認識させ、欠席者数の減少を図る。
	その他	・希望進路の実現	・年度内進路決定率100%を目指す。	・進路指導課との連携を密にし、全体指導・個別指導を通して、段階的・計画的に進路研究および受験対策に取り組ませる。
		・特別活動の充実	・各部活動各種大会上位入賞を目指す。 ・学校祭のアンケートで満足度90%以上を目指す。	・ホームルーム・学年集会等を利用して、部活動や学校行事（学校祭等）に積極的に参加し、高校生活最後の思い出を作るとともに、集団行動の中で人間力を磨くよう指導する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	
特 定 課 題	I Tを活用した授業	・パソコン活用授業の充実	・教職員全員が情報機器を活用した授業を行う。	・情報機器を活用した授業を全教諭が学期に1回実施する。	
	学校の個性化	・特色ある教育課程の編成	・国際経済科の募集停止に伴い、国際経済科の特徴を引き継ぐ教育課程の編成をおこなう。 ・学科の特長を生かしながら新学習指導要領に向けた特色ある教育課程の編成に取り組む。	・生徒の興味・関心や進路希望等に対応したコースを設け、教育目標や年間計画を明確にする。 ・アンケート等を通して実態を把握する。 ・新学習指導要領の内容を検討する。	
			・外部講師の活用	・年間指導計画に沿った最低20時間以上の実施	・生徒の多様な興味・関心に応えるとともに、より高度な資格取得や発展的な学習に結びつける。
			・大学等との連携への取組	・大学等との連携の基盤づくり(連携先検討)	・高度資格(日商簿記1級等)を取得させ、高大連携の基盤をつくりを目指し、難関大学に挑戦させる。
			・起業家教育の推進	・起業家教育の定着 ・知的財産教育の充実	・企業を興すまでの一連の流れ学習や新商品開発を目指すことで、将来の起業家の育成を図る。 ・特許庁のテキスト利用から、興味関心を喚起する。